

きぼうとみらい

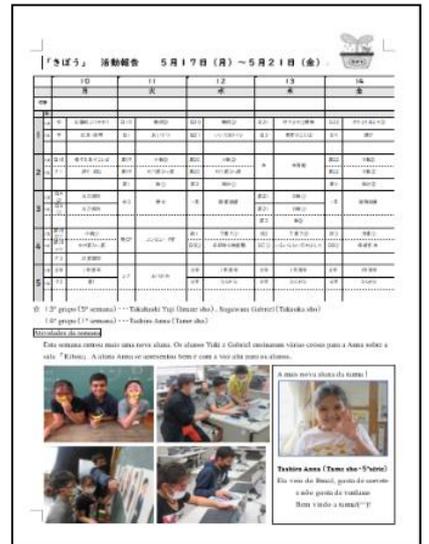
保護者へ日本の学校についての情報提供

初期生活適応支援を受ける「きぼう」の児童の保護者は、日本の文化はもちろん、日本の学校生活に関してほとんど知りません。小学生の場合、家庭での保護者の関わりが不可欠です。そのため、保護者への情報提供として、日本の学校についてお知らせをしています。

『今週の活動報告』の発行

『今週の活動報告』は、「きぼう」での学習の状況を保護者や在籍校担当者にお知らせする目的で、週1回発行しています。

表面には児童の様子や、学習内容の紹介をしていますが、裏面には、日本の学校についてのコラム「おしえて学校のこと」を掲載しています。このコラムは理解しやすいように、保護者からの質問に対して答える「Q&A」の形式にしています。「きぼう」は通級期間が6週間なので、6つのテーマで作成しています。



このコーナーでは、保護者のみなさんに、日本の学校のことを知らせてもらえるように、学校生活のことをQ&Aでお伝えします。日本の文化や学校の習慣は、母国と違うことがたくさんあります。保護者のみなさんが理解し、学校の先生と協力しながらお子さんの学校生活をサポートしていきましょう。

今日のテーマ「時間割」

Q: 日本の学校は朝から夕方まであるの？

A: 日本の学校は、朝8時から始まります。授業は1時間目から6時間目まであります。1コマ45分です。4時間目が終わると、給食を食べます。その後、掃除をして、午後には授業を受けます。下校時間は夕方4時頃です。(5時間目まで下校する日もあります。その場合は3時ごろ下校します。)

Q: 「時間割」って何ですか？

A: 「時間割」とは、1週間の授業スケジュールのことです。年当初めにクラスの先生から配られます。なるべくわかりやすい所に貼っておきましょう。

曜日が書いてあります。この日は、「体育」…。この日は、体操服を着て登校します。

時間割が変更する場合や、特別に必要な持ち物があるときは、「連絡帳」に書きます。毎日必ず連絡帳をわがしましょう。

Q: 「宿題」は、やらないとダメ？

A: 宿題は毎日必ずやりましょう。日本語が難しくわからないかもしれませんが、家庭学習の習慣を身につけ、毎日やって提出することが大切です。日本の学校では、成績をつけるときに、テストの得点だけでなく、提出物をきちんと提出することができるかどうかも参考にされます。小学生のうちから、「提出物の締め切りをきんぐと守る」習慣がついているかどうかは、将来進路を選択するときにも大切なポイントになります。慣れるまでは大変ですが、お子さんの成長のために、家庭で協力して、今のうちに家庭学習の習慣をきちんとつけましょう。

『おしえてがっこうのこと』

- ① 持ち物編**
 - Q: 学校にピアスをつけていってもいいですか？
 - Q: 毎日何を持っていけばいいですか？
- ② 学校行事編**
 - Q: 土曜日の授業参観は行かないといけませんか？
 - Q: どんな学校行事がありますか？
- ③ 時間割編**
 - Q: 学校は朝から夕方までありますか？
 - Q: 宿題はやらないといけませんか？
- ④ 登下校編**
 - Q: 歩いて学校へ行きますか？
 - Q: 休む時はどうしたらいいですか？
- ⑤ 給食編**
 - Q: 給食当番は何ですか？
 - Q: 日本の食べ物が苦手です。
- ⑥ 連絡帳編**
 - Q: 連絡帳、連絡袋とは何ですか？

保護者からは「お菓子を持ってきて学校で食べてもいいですか。」「どうしてお弁当は冷やさないといけませんか。」「“したじき”とは何ですか。」「朝ごはんを学校で食べてもいいですか。」など、様々な質問も寄せられています。一見些細な疑問ですが、来日直後の保護者は身近に情報がなく、不安に思っていることがわかり、情報提供の大切さを感じています。

その他に「きぼう」では、保護者へ向けた様々な活動を行っています。

■日本の学校に関するガイドブック配布

日本の学校生活

(登下校、欠席連絡、給食、集金など)について説明した「小学校に関するガイドブック」を作成し、保護者に配付しています。



■入級前・修了時ガイダンス

入級前ガイダンスでは、パワーポイントや映像を使って「きぼう」での活動の様子を伝えます。

修了時には、在籍校に戻ってから気をつけたいことを、保護者に説明しています。



■保護者への協力をお願い

・連絡帳の使い方

毎日、児童は連絡帳に連絡を記入します。家に帰ってから、保護者に見せ、サインをもらいます。「きぼう」からの個人的な連絡も連絡帳を活用しています。保護者が、連絡帳の使い方を理解できるようにします。



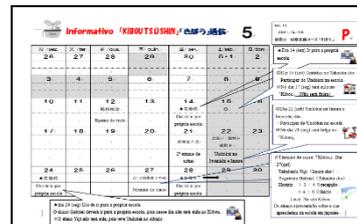
・音読の宿題支援・音読カード

毎日、音読の宿題があります。その日に学習した日本語を読みます。保護者に音読の様子を聞いてもらい、サインを書いてもらいます。音読カードの習慣を知ってもらうと同時に、子どもの学習に関心をもってもらえるようにします。



■「きぼう通信」の発行

月に1度、ポルトガル語とタガログ語に翻訳して発行しています。「体操服を着て登校する日」や、「絵の具セットをもって来る日」などを事前にお知らせし、保護者に協力を得ます。裏面は写真を掲載し、児童の様子を紹介しています。



高橋ビッキー相談員のブラジル紹介

こんにちは、相談員の高橋ビッキーです。

今回は、ブラジルの移民について紹介します。ブラジルは、昔からたくさんの国から移民を受け入れてきました。アフリカ、ヨーロッパ(特にポルトガル、イタリア、スペイン、ドイツ)、日本から移民がありました。私も日系2世です。父親は台湾人、母親は日本人です。でも、ブラジルのサンパウロで生まれたので国籍はブラジルです。

ブラジルの中でも、日系、ドイツ系、ポルトガル系と、言語やルーツの国によって、居住地域が異なる傾向があります。サンパウロ州は様々な国からの移民が多いですが、南の地域はヨーロッパからの移民が多いです。

現在ブラジルに移民しているのは、南アメリカの国の人たちが多いです。最も多いのはベネズエラです。次にパラグアイ、ボリビア、ハイチです。しかし、コロナの影響でブラジルへの移民は以前より少なくなっています。一方、ブラジル人の国外移住は年々増加し、約360万人が国外で暮らしています。

移住先は、アメリカ、パラグアイ、日本、イギリス、スペイン、ポルトガルです。今年度9月の調査では、豊橋の外国人人口は18,455人で、そのうち、ブラジル人は8,341人です。

Brasil
Imigração

